

## 中国企業訪問報告書

学術交流委員 重松利信・森下浩二

訪問先：折江大学

対応者：工学部教授 陳国邦，工学部教授 邱利民

所在地：杭州市内（杭州駅からタクシーで15分）に位置している。

規模：学生数約45000名の国立大学でキャンパスは6箇所にある。それぞれのキャンパスの広さ、施設は日本の大学規模であり、留学生用の寮もある。学生の質は中国でも5本の指に入るくらいのレベルの総合大学である。

母体：中華人民共和国

訪問は制冷与低温研究所を行い、本学の説明、現代GPの説明を行い、研究所施設および学内施設の見学を行った。

訪問した制冷与低温研究所には学部生40名、修士60名、博士20名、PD20名を要し、中国で一番進歩的な研究を行っている所である。研究上の関係は名古屋大学やアメリカの大学と密な協力体制をとっている。卒業生は日本の住友重機などにも就職させた実績がある。

制冷与低温研究所・副所長・邱利民先生は本学との交流に非常に興味を示されたが、相互交流の経費の分担が現在のアモイとの協定同等では“留学した者が得をする”ので大学当局が認めない可能性が高いとのこと。訪問は制冷与低温研究所を行い、本学の説明、現代GPの説明を行い、研究所施設および学内施設の見学を行った。もっと違った交流を模索すべきとの指摘があった。同様の交流を各国の大学（ドイツやフランス、韓国）とやっており、特別新しいことではなさそうである。

もし学生を派遣する場合には、研究を主に考えた学術交流あるいは語学研修がよいと考えられる。但し、高専の学生の場合、研究に対する知識を増やす必要がある。また学内では英語も使え、議論も英語で行える。この点は非常にすばらしい点で、中国語と英語を同時に習得できる可能性がある。



## 中国企業訪問報告書

学術交流委員 重松利信・森下浩二

訪問先：上海安川電動機器有限公司

対応者：総経理助理・工場長 清松益夫

上海市郊外（中心部より社用車で1時間半）に位置し、社員総数（1077名、内日本からの派遣された社員は20名程度）の企業で中国に進出している企業としては中規模である。主力製品はインバーター、空調用大型モーター、エレベーター用 IPM モーターを生産している。全体の80%が中国国内販売品でその他の20%が日本に輸出している。

この会社には生産部門と品質管理部門のみ有り、開発部門は無く、本社での開発品を生産する工場として機能している。

今回の訪問では、本校が進めている現代 GP の趣旨説明と本校の説明を行い、社内見学、社員食堂での検食を行った。

清松工場長は現代 GP の趣旨をよく理解いただき、できる範囲で協力したいとの意思を示していただいた。作業者は中国人であり、日本人が担当しているのはその技術指導と事務系のことだけであるので、当面は見学コースとしての取り入れればと考えている。



## 中国企業訪問報告書

学術交流委員 重松利信・森下浩二

訪問先：上海教育委員会

対応者：国際交流係 副所長 張進

今回お会いした張副所長は日本の筑波大学で学んだことがあり、非常に日本語が上手であった。現在でも年に数回日本を訪れてられている。

大学は以下のように4種類ある。

- ① 中華人民共和国立大学
- ② 上海市立大学
- ③ 市管大学（国がお金を出して、マネージメントを市がする大学）
- ④ 私立大学

例えば①には復旦大学，上海交通大学，華東師範大学，同済大学などであり、これらの大学はすべて上海市教育委員会が統括し、その数は全67校ある。これらは学歴教育校である。

また、管轄外には学歴にならない職業訓練校がある。上海電気李武技師学院は学歴校ではなく、職業訓練校に相当する。

さて、教育・研究に対して受験者に人気のある大学をランク付けすると

復旦大学，上海交通大学

華東師範大学，同済大学

・  
・  
・

上海電気学院

となり、張氏から紹介された上海電気学院（上海電気李武技師学院の母体となる大学）は2年前に職業訓練校から大学に移行した学院であり、各付けは低い。また同様に紹介された上海第二工業大学は8階建てのビル一つにすべてをもつ職業訓練校である。

上海に進出している企業は4800企業に上り、教育委員会指導（上海市教育委員会 就業指導中心）の下、インターンシップ制度が始まりつつある。それに関して、日本から学生を派遣する可能性は言葉の問題があり、難しいとの指摘があったが、企業を選べば中国へのインターンシップも可能ではないかと思われる。

尚、今後何かあれば協力していただける事、中国からの招待講演者となっただけの返答を戴いた。

因みに横浜市，大阪市と上海市は姉妹都市協定を結んであり、それに伴い横浜市立大学，大阪市立大学と上海市の67大学の間で学術交流協定が結ばれている。

## 中国企業訪問報告書

学術交流委員 重松利信・森下浩二

訪問先：上海電気李武技師学院

対応者：副院長 毛錫平，顧問 姫錦珍，黄先生

所在地：上海市郊外（中心部よりタクシーで1時間）の楊浦地区に位置している。

規模：学生数約1000名、教員60名程度の上海では下級の学校である。

昨年までは中学校卒業者が入学しており、現在は高校卒の学生および会社からの派遣学生を受け入れている。電気系・機械系・コンピューター系の3学科より構成されている。

母体：上海電気学院。また、学校運営資金は上海市総工会（日本の電気系商工会）より拠出されている。因みに顧問は上海総工会より派遣されている。

訪問は学校の首脳陣に対して公式訪問的に行われ、本学の説明、現代GPの説明を行い、校内施設の見学を行った。学院内には寮も完備されている。

当学院は電気・機械系の会社の社員の再教育機関として存在し、職工を育成することを目的としている。中国では職工は初級・中級・高級の国家資格があり、ここでは技能検定により、これら職工を輩出している。従って、教員も高級エンジニアの資格を持つ職工である。また、上海電気学院の附属学校的存在でもあり、編入学することで学士の免許を取得できる。当学院との話合いは上海総工会対外交流中心の海外部主任の呉美平を通して行われた。

交流に対して非常に積極的では非協定を結びたいとの趣旨であった。アモイ理工学院との交流内容に関しても説明を行い、「まずは互いの教員を語学させてはどうか」「日本の製品規格など最新の内容を教えてほしい」「本学を通して日本の企業に就職を斡旋してほしい」など実際的な話もあった。ただ、本校、当学院ともに語学系の学科が無く、本格的な語学研修は他学院等で行わざるを得ないのではないかとと思われる。次回は校長や事務部長との会談を希望された。母体の上海電気学院の副院長の王也坊女子とも会食を共にする機会に恵まれた。副院長も交流協定に積極的で、もし技師学院との協定が結ばれば、留学に対する協力は惜しまないともことであった。





## 中国企業訪問報告書

学術交流委員 重松利信・森下浩二

訪問先：辻産業重機（江蘇）有限公司

対応者：企画課・課長 甲斐晃之

上海市郊外（中心部よりタクシー車で2時間半）の張家港市に位置し、社員総数1800名、（内日本からの派遣された社員は40名程度）広さは700m×400mの敷地面積を有し、社内に税関付き埠頭を2つ有する企業で中国に進出している企業としては大規模である。主力製品はイン船体の船主・船尾を生産している。全体の80%が日本への輸出品でその他の20%が韓国輸出と中国国内販売品である。

この会社には設計・生産・管理部門を中国に移管しており、辻産業の主力ナ工場として位置している。また、日本人社員用の社宅も完備されている。

今回の訪問では、本校が進めている現代GPの趣旨説明を行い、社内見学、役員食堂での会食を行った。

甲斐課長には現代GPの趣旨をよく理解いただき、できる範囲で協力したいとの意思を示していただいた。学生が中国を訪れる際には見学させていただける様である。また、実際に学生を派遣する場合には、設計部門での研修となるが、数ヶ月の短期では中国人設計者（ほぼ中国の大学を卒業した学士）との密な関係を構築することは難しいと思われる。片言でも中国語をマスターしておく必要がある。

